

## アジアの社会福祉と日本

— 2001年(第49回)全国大会への参加を—

日本社会福祉学会第49回全国大会

実行委員長 川添 雅由



21世紀がスタートする記念すべき最初の年に、日本社会福祉学会第49回全国大会をここ沖縄で開催することになり、沖縄在住の関係者一同大変光栄に思うと同時に、全国の多くの会員の皆さんの参加により充実した大会にさせていただきますようお願い申し上げます。

本大会のテーマは「アジアの社会福祉と日本」としています。21世紀初頭の社会状況は、IT革命の推進などによりグローバル化が進展し、これまで以上に流動的で複雑化した不透明な時代となることが予想される一方、他方では地球規模での協調・共生の強化が求められていることが、今回のテーマ設定の背景にあります。

沖縄はかつて琉球と呼ばれた時代がありますが、その時代にはわが先人たちは、中国、日本、朝鮮はもとより、今のマレーシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシアなどの東南アジア諸国に、船を出して各地の物産を売買しつつ、異文化間の交流をしていました。このことを「舟楫を以て万国の津梁となす」(船と舵によって万国との間に船橋を架けて交流する)、つまり、「万国津梁」という言葉で表現しています。

沖縄県はこの歴史的経緯を踏まえて、国の「新・全国総合開発計画」(平成10年)の中で、わが国の中で果たすべき沖縄の役割を「太平洋・平和の交流拠点(パシフィック・クロスロード)」と位置づけ、その実現を目指しています。

今大会は、アジアやアメリカの国々で活躍されている方々をお招きし、アジア社会に共通の社会福祉のありよう等を探ることを目的に「アジアの社会福祉と日本」をテーマとして大会が開かれます。それが「太平洋・平和の交流拠点」を目指す沖縄で行われることは、まことに意義深いことと考えています。

メインシンポジウムは、「東アジアの社会福祉と日本への期待」と題して、中国、韓国、タイ国等の関係者を迎えて開かれますが、それに先立って、カリフォルニア大学バークレー校のジェイムズ・ミッジリ教授(社会福祉大学院学長)による記念講演を予定しています。また、アジア社会福祉学会との共催で、「アジア社会福祉における国際協力と国際協調」と題した特別シンポジウムも企画しています。

加えて、今大会では、来年と再来年の大会テーマとなる「社会保障制度改革と社会福祉」及び「社会福祉実践を問う—ソーシャルワークとケアワーク」をテーマとするミニ・シンポジウムも予定していますので、ご期待をいただきたいと思います。

また、大会初日の夕方には、船上から夕日を眺めながらの懇親会を予定しています。那覇港から出発して、約3時間ほどの周遊です。数多くの会員のみなさんの参加をお待ちしていますが、知己の方々をお誘いして共に参加いただければ、なお喜ばしいかぎりです。

大会会場は、初日は沖縄コンベンションホール、2日目は沖縄国際大学で、それぞれ10月20日(土)と10月21日(日)と予定しています。いずれも宜野湾市内にあります。

本大会の運営は、従来のように一つの大学が担当する方式をとらず、沖縄県内の日本社会福祉学会員を中心として、沖縄地域福祉学会その他の関係団体との協働により準備・運営に当たり、万全を期すよう努めています。ただ、このような大きな大会をお引受けするのは最初の経験ですので、前回大会のような手際のような運営ができるかについては大変不安があります。至らない点が出るかと思いますが、その時には何なりとご指摘、ご助言等をいただきたいと思います。

大会が開催される10月は、沖縄ではまだまだ海水浴も可能な季節です。学会での発表等が終わりましたら、沖縄の海や自然を、歴史や文化等を楽しんでいただければ幸いに思います。実行委員会では全国の多くの皆さんの大会参加を心よりお待ちしております。

# 第49回全国大会を迎えるにあたって

日本社会福祉学会第49回全国大会  
実行委員会 事務局長 保良 昌徳

日本社会福祉学会第49回全国大会の本番まで間近となり、沖縄県内の学会員一同、大橋会長をはじめとして関係者のご指導を仰ぎつつ、全国からの受け入れ準備に追われる日々である。8月末現在、参加の事前申込者が800名余で、研究発表も自由研究発表が305本、ポスター発表が53本、自主企画シンポジウム8本などが予定され、関連学会や交流会、あるいは出版社の展示販売など、多くの参加者が予定されている。また、今大会は沖縄でアジアの社会福祉について考え、特に日本の役割等について考えることを主旨として、記念講演や大会シンポジウム、特別企画シンポジウムが企画されている。

## 記念講演

第49回全国大会の記念講演会は、初日の21時半から、沖縄コンベンションホールを会場としてカルフォルニア州立大学パークレー校社会福祉大学院学長のジェイムズ・ミッジリ氏を招聘し「グローバリゼーションと社会福祉－国際社会福祉との関連で－」と題した講演会を予定している。

今日、グローバル化という概念はあらゆる分野で広く語られるようになってきている。グローバル化により失業や貧困が深刻化するばかりでなく、経済的な国際競争の荒波の中で各国政府は社会保障関係費を縮小せざるを得ないという状況も見られる。グローバル化によって世界が統合されつつある中で、ソーシャルワーカーはグローバル化の過程や影響について捉え方や国際的問題や活動に国境を越えたあり方が問われている。本講演会においては、グローバル化の性質について複眼的に理解しながら、この時代におけるソーシャルワーカーの新たな役割等について、国際的に活躍される博士に論じてもらう予定である。

## 大会シンポジウム

記念講演に引き続き、本大会大会シンポジウムが開かれる予定である。このシンポジウムは「東アジアの社会福祉と日本への期待」と題し、アジア各地で活躍する内外のシンポジストの招聘を予定している。

日本はもとより東アジア諸国は急激な社会経済変動に見舞われている。また、これら諸国は、グローバリゼーションの影響を大きく受けている。この変動と変化の中であって、各国では社会福祉制度の整備が進められる一方で、社会福祉における政府、民間団体、国営・民営企業、国民に対しての新たな期待がもたれるようになってきた。グローバリゼーションを視野に入れると、この新たな社会福祉の展開を世界的規模で検討しなければならないのが、われわれの置かれた現状である。

このシンポジウムは、上記の問題意識をもって、社会経済変動、社会福祉の新たな展開及びグローバリゼーションをキーワードとして、東アジア域内に住む人々の福祉(WELBEEING)の向上のために関係諸国が何をしなければならないか、わが国が他の東アジア諸国から何を期待されているのか、それに対してわが国の研究者と実践家はどうか応えることができるのかについて意見交換を行ない、今後の展望を行なうことをめざすことを目的として開催される。記講演・シンポジウムともに同時通訳の予定である。

大会シンポジウムは日本社会事業大学教授であり本学会の会長の太橋謙策氏をコーディネーターとして行われる。

- ① 咸 世南氏 (江南大学校社会福祉学部教授、韓国社会福祉学会会長)
- ② Kay, Ku氏 (国際社会福祉協議会副会長、香港社会福祉協議会会長)
- ③ 高嶺 豊氏 (国連アジア太平洋経済社会委員会社会開発部障害担当専門官)
- ④ 萩原康生氏 (日本社会事業大学教授、アジア社会福祉学会事務局長)

## ミニシンポジウム

本大会においては2本のミニシンポジウムが計画されている。特にこのシンポジウムは来年・再来年の学会の中で取り上げられるテーマを取り上げ、一つのテーマについて、2年又は3年にまたがって議論を深めることを目的としている。

ミニシンポジウムⅠは「社会保障制度改革と社会福祉」と題し、古川孝順氏をコーディネーターとして以下のシンポジストで行われる予定である。

内容は「1980年代のなかばから推進されてきたわが国の社会福祉改革も昨年の6月の社会福祉法の施行で一段落ついたという状況であろうか。この15年余、社会福祉は21世紀を展望しつつその新しいあり方を追い求めてきたように思うが、その間同時並行的に社会保障改革も推進されてきた。このミニシンポジウムにおいては、一度視野を拡大し、この15年余における社会保障改革と社会福祉改革を一体的に捉えるとともに、その関連性を問いつつ、改革の意義と問題点、さらにはこれからの課題等について検討を加え、来年度の日本社会事業大学におけるメインシンポジウムにつなげたいと考えている。多数の会員諸氏のご参加とご発言を得て実りあるミニシンポジウムになることを期待している。」(古川氏)を主旨として開かれる。

### シンポジスト

- ①京極高直氏 (日本社会事業大学学長)
- ②森山幹夫氏 (厚生労働省社会・援護局総務課長)

- ③ 椋野美智子氏 (内閣府参事官)  
④ 杉村 宏氏 (法政大学教授)

ミニシンポジウムⅡは「社会福祉実践を問うーソーシャルワークとケアワーク」と題し、白澤政和氏をコーディネーターとして議論が行われる予定である。

内容は、「社会福祉士と介護福祉士、生活指導(相談)員と寮母の関係はどうあるべきか。また、両者はほぼ同じ対象者に関わっているが、両者の共通点や相違点を明らかにし、両者がどのような関係であるべきかが論議される予定である。そのため、個々のシンポジストの立場から、自らの考えや感じている両者の関係について言及していきたい。また、このシンポジウムで結論を導き出すというよりも、このシンポジウムを介して議論を深めていく材料を提供するものにした」という主旨のもとに、以下のシンポジストが予定されている。

- ① 渡辺裕美氏 (日本社会事業大学助教授)  
② 本名 靖氏 (東海大学助教授)  
③ 橋本泰子氏 (大正大学教授)  
④ 中村裕子氏 (仙台白百合女子大学教授)

### 特別企画シンポジウム

今大会の2日目、日本社会福祉学会とアジア社会福祉学会の共同主催による特別企画シンポジウムが開催される。

本シンポジウムは、「アジア社会福祉における国際協力と国際協調をめざして」と題し、「アジアは急激な社会経済変動に見舞われている。そして、成長と発展の中にあって、アジアの社会は数多くの経済的社会的問題に直面している。これらの問題は、たとえば児童買春を含む売春問題、薬物問題、移住労働者問題等であり、これらの問題の解決には国家レベル及び国際レベルでの関係者の緊密な協力と協調が必要である。これらの協力と協調のためには、公的部門での戦略策定、政策立案、手続・法制度の整備が必要であり、N GO、民間部門、市民社会の参画が必要不可欠である」という視点に立って、国際的に著名な研究者及び実務家を招聘し、上記の諸点に関わる意見の交換を行うとともに、それらの成果をもとに世界に向けて提言を行うものとするものである。

ファシリテーター

ジェイムズ・ミッジリ氏 (カルフォルニア大学  
バークレー校社会福祉大学院学長)

コーディネーター

萩原康生氏 (日本社会事業大学社会事業研究所教授、  
アジア社会福祉学会事務局長)

シンポジスト

- ① イルワント氏 (インドネシア、アトマジヤヤカ  
トリック大学社会開発研究所助教授)  
② ラジェンドラン氏 (マレーシア、岩手県立大学  
社会福祉学部教授)  
③ エベリナ・パンガランガン氏 (フィリピン大学  
社会福祉学部教授)  
④ ニアム・テリアン氏 (シンガポール国立大学社  
会科学部助教授)

本大会の構成は、初日の午前中に自主企画が予定されている。午後は記念講演と大会シンポジウムとなり、研究発表等に関しては2日目にまとめられている。

自由研究発表は全部で305本がエントリーされ、午前と午後の前半と後半に部会に分かれて発表がなされる予定である。ポスター発表は53本の応募があり、すべて2日目に沖縄国際大学5号館の同じフロアーにあるゼミ室7会場で開催される予定である。それぞれの会場においては、時間を決めて各発表からの報告が予定されており、多くの参加者を期待したい。

さらに、本大会においては合計8本の自主企画シンポジウムが午前4本、午後4本が開かれる予定である。8本の自主企画シンポジウムのうち2本については、本49回大会実行委員会が特別に企画したもので、沖縄の地域性や特徴を反映した福祉問題に関わるシンポジウムであり、「沖縄における国際児に関わる問題と支援ー総合相談・アメラジアン教育権・養育費確保の法的支援」と「離島における福祉問題の特徴と課題」が予定されている。

また、本大会では、特に沖縄県についての理解を深めるための沖縄紹介コーナーを設け、沖縄県の社会福祉のながれや現状について資料、関連する文献等を展示し紹介する予定である。同時に、1フィート運動で得られたフィルムを編集し作成された「終戦50周年記念フィルム 沖縄戦」(約1時間)を連続上映する予定である。多数の会員が参加され沖縄についての理解を深めていただきたい。県内作業等の作品の展示販売を予定している。その他、いくつかの関連学会や交流会や書籍等展示販売コーナーなどが予定されている。

また、大会初日には懇親会が予定されている。今回は、約3時間のクルージングによるディナーパーティーで、那覇港を出港し、沖縄本島西海岸沿いに北上し、バイキングやフリードリンク、沖縄の芸能など、慶良間沖の夕日や本島の夜景を楽しみながら、懇親を深めていただきたい。終了後は、専用バスにてホテルまで案内の予定である。

本大会は、初日が沖縄コンベンションセンター、2日目が沖縄国際大学と会場が2ヶ所になり、宿泊のほとんどが那覇市内のホテルとなることから、参加者は事前に経路や交通手段にご注意いただきたい。JTBに申し込まれた方は、専用バスによる送迎が予定され、21日は一時間おきに会場～空港間をシャトルバスが運行する予定である。

その他、会場ではクロークをはじめ、子供同伴の参加者のために保育室も設置する予定である。また弁当の手配や休憩コーナーの配置、保健室の配置なども予定している。大会では、延べ250名のスタッフが“黄色のかりゆしウエアー”(アロハシャツ)を着用し、参加者の対応に当たる予定である。

実行委員一同、戸惑いながらも参加者に少しでも満足いただけるよう準備作業を進めているところであり、多数の会員の参加を心から歓迎し、充実した大会となるよう願う次第である。



# 日本社会福祉学会 2001年度 第1回理事会報告

・2001年7月14日(土)12時～  
・子ども家庭総合研究所会議室

- ・出席者 別掲
- ・会長挨拶
- ・審議事項

## 第1号議案 理事辞任

研究担当理事から出されていた理事辞任願いについて受理する。ただし、残任期間は、4ヶ月なので補充しないで、総会では報告事項とする。

## 第2号議案 第49回(2001年)大会(沖縄)について

沖縄での開催を意義づけ、アジアの社会福祉をとりあげる。メインシンポジウムには大橋会長、韓国社会福祉学会会長、沖縄在住のESCAP会長高嶺豊氏、ミニシンポIは、来年度のメインシンポジウムへつなぐテーマで古川理事をコーディネーターに、シンポジストには、京極高宣日本社会事業大学学長他、同IIは援助論のテーマで白澤理事をコーディネーターにシンポジストは検討中である。なお、特別企画はシンポジウムは、アジア社会福祉学会と共催でインドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシアからシンポジストを迎える。

## 第3号議案 第50回(2002年)大会(日本社会事業大学)について

日程は2002年10月26日(土)から27日(日)と決定。第51回大会は、四天王寺国際佛敎大学の学科会議に正式に依頼したい。(ただし、大会事務局は、大学に大学院がないためむずかしい面があり、会場として引き受けていただき、事務局は別に設ける)

第52回大会は、学会設立50周年(2004年)となるが、東洋大学で開催することが内定。

## 第4号議案 2000年度事業・会計決算監査報告

上記の説明が行われ、承認された。

## 第5号議案 2001年度補正予算、2002年度予算および事業計画(案)

2001年度補正予算を組む必要養についての説明および2002年度予算、事業計画が承認された。なお、職員の雇用等に関しては社団法人社会福祉士養成施設協議会の設立後、今後の体制を検討する。

## 第6号議案 「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」報告について

会員から提出された意見を検討し、規約等にかかわるものを次回の総会で改正し、新しい学会を体制

|               |         |   |
|---------------|---------|---|
| 会 長           | 大橋 謙 策  | ○ |
| 会長職務代行・関西担当理事 | 岡本 民 夫  | 欠 |
| 総務担当理事        | 高橋 重 宏  | ○ |
| 研究担当理事        | 小田 兼 三  | 欠 |
| 渉外担当理事        | 古川 孝 順  | ○ |
| 機関誌担当理事       | 白澤 政 和  | ○ |
| 庶務担当理事        | 田端 光 美  | ○ |
| 北海道担当理事       | 杉村 宏    | 欠 |
| 東北担当理事        | 佐藤 嘉 夫  | ○ |
| 関東担当理事        | 山崎 美貴子  | ○ |
| 中部担当理事        | 高島 進    | 欠 |
| 中・四国担当理事      | 鈴木 勉    | ○ |
| 九州担当理事        | 保田井 進   | 欠 |
| 理事            | 一番ヶ瀬 康子 | 欠 |
| 理事            | 右田 紀久恵  | 欠 |
| 理事            | 岡本 栄 一  | ○ |
| 理事            | 京極 高 宣  | 欠 |
| 理事            | 田代 国次郎  | ○ |
| 理事            | 三浦 文 夫  | 欠 |
| 理事            | 宮田 和 明  | ○ |
| 監事            | 佐藤 進    | ○ |
| 監事            | 中 垣 昌 美 | ○ |

▼オブザーバー 川添 雅由(第49回実行委員長)  
保良 昌徳(第49回事務局長)  
鬼崎 信好(九州担当理事代理)

を整備する。

## 第7号議案 規約等の改正について

変更予定/学会規約・名誉会員制度規則・理事および監事選出規則・理事会運営内規・事務局運営内規・機関紙編集委員会規程・機関紙編集規程

## 第8号議案 「ヒトゲノム(脳死・臓器移植を含む)に関する特別委員会」「倫理と社会福祉学に関する常置委員会」(常置)設置について

学会としての意見を求められることも多くなってきた。実践を含め常置委員会を作り、研究をしたい。

## 第9号議案 韓国社会福祉学会との交流、社会福祉専攻留学生交流協議会の支援について

韓国学会との学会交流については、渡航費、宿泊費、通訳の渡航費、昼食費、論文の翻訳料等費用の負担について明確にする。また関東を中心に韓国留学生の交流会が秋に設立される。

## 第10号議案 地方部会について

各地方部会の活動状況が報告された。

## 第11号議案 入会申し込み書および大会開催校の収支報告書の様式化について

申込書…審査資料として記載事項の欄を変更。  
大会収支報告書…様式化し、次期開催校が運営の目安とすることができる。

## 第12号議案 会員入会審査について

承認(氏名は5頁～6頁)

## 第13号議案 退会の承認(学会ニュースNo.27に掲載した長年の不明者34名、会費および入会金の未納者11名)について

承認



新入会員 (248名)

2001年度第1回理事会承認

- 相澤 朋子 同志社大学大学院
- 相澤 朋子 高崎健康福祉大学
- 青山 泰子 北海道大学大学院
- 明石 秀伸 大分医科大学大学院
- 秋田 郁久 日本社会事業大学大学院
- 秋山 千恵 日本社会事業学校
- 朝里 千希子 大阪大学大学院
- 安井 有民 立正大学大学院
- 新井 敬子 日本福祉大学大学院
- 有馬 健一 立正大学大学院
- 安藤 悦子 日本社会事業大学社会事業研究所
- 池田 幸男 立正大学大学院
- 石川 智昭 (財)ダイヤ高齢社会研究財団
- 石橋 美智枝 石川県立看護学校
- 和泉 正子 東洋大学大学院
- 伊藤 美樹 日本福祉大学大学院
- 井土 睦雄 近畿福祉大学
- 井上 祐子 福岡県立大学大学院
- 今井 孝司 甲南大学大学院
- 今井 均 日本福祉大学大学院
- 今井 正雄 専修学校共生館 福祉医療専門学校
- 今村 あおい 日本福祉大学大学院
- 岩崎 克司 日本福祉大学大学院
- 岩崎 賢次 岡山県立大学大学院
- 岩崎 千代子 日本福祉大学大学院
- 上野 紀美子 日本社会事業大学大学院
- 上原 祐子 県立広島女子大学大学院
- 江口 恵子 長崎市立みどり荘
- 江口 賀子 西九州大学
- 大江 千恵子 長崎国際大学
- 大越 扶貴子 日本社会事業大学大学院
- 大島 憲子 淑徳大学大学院
- 大瀬 美紀 東京理科大学大学院
- 大瀬 美緒 アイオワ大学アジア太平洋問題研究所
- 大竹 伸治 医療法人社団 原クリニック
- 大塚 洋子 福島大学
- 大月 かおり 柴田町中央在宅介護支援センター
- 大沼 由香 大阪人間科学大学
- 大野 まどか 立正大学大学院
- 大村 智重 群馬社会福祉短期大学
- 岡 輝 秀 川崎医療福祉大学大学院
- 岡田 裕美子 日本福祉大学大学院
- 岡田 佳代 四国学院大学大学院
- 小河 孝則 川崎医療福祉大学大学院
- 小萩 剛史 東洋大学大学院
- 小萩 朋子 日本福祉大学大学院
- 小澤 均 日本福祉大学大学院
- 尾場 一郎 長崎国際大学
- 甲斐 一郎 東京大学大学院医学研究科
- 加賀谷 真紀 青森県立保健大学
- 梶 晴美 老齡健康科学研究財団附属日本介護研究所
- 梶 義人 東京都吉祥寺老人ホーム
- 片山 貴夫 吉備国際大学大学院
- 片山 智彦 福井県立大学
- 勝田 雅実 立正大学大学院
- 桂木 奈巳 宇都宮短期大学
- 加藤 大介 福岡県立大学大学院
- 角野 雅美 日本福祉大学大学院
- 金田 喜弘 堺市社会福祉協議会
- 上本野 唱子 三重県立看護大学
- 亀川 記子 仏教大学大学院
- 川崎 昭博 龍谷大学短期大学部
- 河田 隆 宇都宮短期大学
- 川原 陽子 四国学院大学大学院
- 川又 百合子 (株)住友生命総合研究所
- 河本 美希子 昭和女子大学
- 菅野 淑子 北海道教育大学
- 菊池 潤考 岩手県立大学
- 菊池 英明 東京大学大学院
- 金 智美 お茶の水女子大学大学院
- 金 恵京 東京都老人総合研究所
- 木村 啓治 金城大学
- 功刀 武 東京都立大学大学院
- 久保田 昇朗 九州看護福祉大学
- 倉持 史朗 同志社大学大学院
- 黒川 岳 佐賀女子短期大学
- 古賀 理 愛知みずほ大学
- 小高 真美 秋田桂城短期大学
- 小西 直毅 兵庫医科大学

- 小松 光代 同志社大学大学院
- 近藤 久仁子 みつみ介護老人保健施設
- 今野 紀子 神奈川県立産業技術短期大学校
- 齋藤 悦子 岐阜経済大学
- 藤井 ゆか 昭和女子大学大学院
- 坂井 三枝子 日本福祉大学大学院
- 酒井 亮吉 関西福祉科学大学大学院
- 坂本 大輔 東北福祉大学大学院
- 坂本 秀泰 萩健康福祉センター
- 相良 洋一 厚生労働省
- 佐久間 謙一 専修学校共生館 福祉医療専門学校
- 櫻 志保子 (財)ダイヤ高齢社会研究財団
- 佐々木 幸恵 岩手県立大学
- 佐々木 由恵 (有)佐々木由恵事務所
- 佐藤 順子 佛教大学福祉教育開発センター
- 佐藤 紀子 社会福祉法人晴智会 清和苑
- 佐藤 爾美 調布市社会福祉協議会
- 佐藤 ゆかり 岡山県立大学大学院
- 澤屋 まち子 NTT東日本関東病院
- 洪田 真樹 広島大学大学院
- 澁谷 英敏 近畿大学九州短期大学
- 下川 久美 岡山県立大学大学院
- 下山 治恭 専修学校共生館 福祉医療専門学校
- 正司 久之 松山学園松山福祉専門学校
- 庄司 明美 山口県立大学
- 正村 妃佐 城西国際大学
- 白取 智子 日本福祉大学大学院
- 菅 肇 大間町老人福祉施設くろまつ
- 菅原 好秀 日本福祉大学大学院
- 杉 哉子 東北福祉大学
- 杉 秀博 川崎医療福祉大学大学院
- 杉原 陽子 東京都老人総合研究所
- 杉村 美佳 東京都老人総合研究所
- 杉山 恵理子 福岡県立大学大学院
- 鈴木 志保子 四国学院大学
- 鈴木 修子 東海大学大学院
- 須永 和宏 静岡県精華短期大学
- 住瀬 俊治 さいたま家庭裁判所
- 瀧尾 慶子 連の実園
- 関 なおみ 神奈川県立衛生短期大学
- 関口 香 東京都豊島区中央保健福祉センター
- 千保 喜久夫 大阪市立大学大学院
- 高内 克彦 宇都宮短期大学
- 高木 里美 世羅中央病院
- 高島 恭子 福岡県立大学大学院
- 高塚 延子 日本社会事業大学大学院
- 高梨 未紀 ノートルダム清心女子大学
- 高野 亜紀子 日本福祉大学大学院
- 田川 則子 東北福祉大学 感性福祉研究所
- 田川 晴基 日本福祉大学大学院
- 田中 真司 専修学校共生館 福祉医療専門学校
- 田中 克哉 九州福祉医療専門学校
- 谷口 敏代 日本福祉大学大学院
- 谷本 博司 四国学院大学大学院
- 玉木 衛 岡山県立大学短期大学部
- 儀 国昭 流通科学大学
- 千葉 弘明 日本体育大学
- 趙 恩じょん 桃山学院大学
- 趙 没名 光星学院八戸短期大学
- 鎮西 裕美 日本社会事業大学大学院
- 月橋 春美 立命館大学大学院
- 土井 恭仁子 立正大学大学院
- 都築 秀代 宇都宮短期大学
- 都築 脩三 大阪市立大学大学院
- 坪 捷江 日本福祉大学大学院
- 坪 悦子 学校法人 俊英学園
- 富田 素子 介護老人保健施設「みのり苑」
- 直島 正樹 足利短期大学
- 中尾 寛子 宇都宮短期大学
- 中川 英子 大阪自強館 甲子寮
- 中原 康博 吉備国際大学
- 中村 昭博 宇都宮短期大学
- 中村 幸子 大阪市立大学大学院
- 中山 哲哉 日本福祉大学大学院
- 永倉 春男 学校法人 俊英学園
- 永田 直往 介護老人保健施設「みのり苑」
- 夏堀 撰 足利短期大学
- 生津 知子 宇都宮短期大学
- 成田 直志 大阪自強館 甲子寮
- 西 郁代子 吉備国際大学
- 西川 潤子 宇都宮短期大学
- 西田 充潔 大阪市立大学大学院
- 西村 實直 日本社会事業大学大学院
- 西村 實直 日本赤十字武蔵野短期大学
- 西村 實直 岡山県立総合社会福祉センター
- 西村 實直 渋谷神宮前福祉作業所
- 西村 實直 熊本学園大学大学院
- 西村 實直 東京都立大学大学院
- 西村 實直 関西国際大学
- 西村 實直 大阪府立大学大学院
- 西村 實直 道都大学
- 西村 實直 北星学園大学
- 西村 實直 東京都立大学大学院

(次頁へつづく)



# ブロック 活動

## 各ブロックの活動をご紹介します

# 活動

### 2001年度東北部会事業計画

- 6月初旬 第1回幹事会を開催（仙台）
- ・第1回研究大会の打ち合わせ
  - ・2001年度事業計画
  - ・今後の部会活動の方向と柱について（活動方針案）
  - ・東北部会総会議案
- 7月20～21日
- 1) 第2回幹事会
  - 2) 第1回東北部会研究大会（盛岡市 繫温泉）
  - 3) 第1回東北部会総会
- ・経過報告
  - ・2001年度事業計画
  - ・予算案
  - ・東北部会規約

- 12月下旬 第3回幹事会開催
- ・第1回研究大会総括
  - ・第2回研究大会企画案（2002年4月下旬）
  - ・地区（県）別研究活動状況の集約（「現場」との連携をふくめて）
  - ・次期役員・事務局体制
  - ・会報の発行

- 2002年
- 4月下旬 第2回東北部会研究大会
- 1) 第1回研究大会テーマの継続・発展
  - 2) 「現場」団体との共通課題への共同の取り組み
  - 3) 自由発表
  - 4) その他

西本 望  
西本 佳子  
野口 尚  
野瀬 真由美  
萩野 詩子  
橋本 喜代美  
橋本 佳子  
橋本 好広  
濱田 太一  
早川 真由美  
半羽 利美佳  
高歳 芙美子  
東 康祐  
平井 正博  
廣川 順子  
深谷 太郎  
深谷 敏之  
福島 容子  
福島 久美子  
藤澤 裕子  
藤田 さかえ  
藤田 雅子  
藤原 里佐  
堀口 美智子  
前田 啓貴  
前田 満信  
榎 真木  
益田 聖美  
松浦 純子  
松江 暁子  
松田 佳奈生  
松永 章生  
松永 千恵子  
松宮 正幸  
松本 典子  
萬谷 和宏  
三浦 正樹  
三谷 嘉明  
三谷 紀敬

大阪商業大学  
西山短期大学  
日本社会事業大学  
介護老人保健施設 正寿園  
山口県立大学大学院  
近畿福祉大学  
佐野国際情報短期大学  
日本社会事業大学大学院  
日本福祉大学大学院  
日本福祉大学大学院  
関西福祉大学  
大正大学大学院  
日本社会事業大学大学院  
日本福祉大学大学院  
横須賀市役所  
日本社会事業大学大学院  
東京都老人総合研究所  
社会保険新報社  
大阪大学大学院  
新宿区役所介護保険課利用者支援係  
立正大学大学院  
国立療養所久里浜病院  
文教大学  
帯広大谷短期大学  
お茶の水女子大学大学院  
県立広島女子大学大学院  
日本福祉大学大学院  
一橋大学大学院  
山口県立大学大学院  
熊本学園大学大学院  
日本福祉大学大学院  
四国学院大学大学院  
宇都宮短期大学  
専修学校共生館 福祉医療専門学校  
日本社会事業大学大学院  
筑波大学大学院  
九州看護福祉大学  
大阪市立大学大学院  
日本赤十字秋田短期大学  
名古屋女子大学  
静岡大学

緑川 浩子  
三輪 秀民  
宮嶋 淳  
宗貞 秀紀  
村田 祐貴子  
百田 裕子  
森川 美帆  
森澤 陽子  
森田 寿美  
森光 珠紀  
森本 英章  
山口 祐二  
山口 結花  
山崎 恭子  
山路 憲夫  
山田 州宏  
山田 ともみ  
山田 亮一  
山本 勝美  
山本 君子  
山本 史郎  
山本 美智子  
湯澤 哲也  
横関 真奈美  
横田 智子  
横谷 佳寿子  
横山 美智子  
吉岡 洋子  
吉川 あゆみ  
吉田 仁美  
吉田 博行  
吉野 千晶  
吉村 夕里  
ラジュンドラン  
若倉 健  
渡邊 貴子  
綿 祐二  
渡邊 雅行  
渡邊 洋子  
和田 憲昌

ジェイク医療福祉技術専門学校  
日本社会事業学校  
日本社会福祉士会  
宇都宮短期大学  
専修学校共生館 福祉医療専門学校  
宇都宮短期大学  
山口県立大学大学院  
上智大学大学院  
世田谷区立バルメフシ上北沢  
県立広島女子大学大学院  
立命館大学大学院  
専修学校共生館 福祉医療専門学校  
九州大学大学院  
県立広島女子大学大学院  
毎日新聞社  
萩野クリニック  
大阪市立大学大学院  
大阪市立大学大学院  
青葉学園短期大学  
日本福祉大学大学院  
日本福祉大学大学院  
日本福祉大学大学院  
立命館大学大学院  
日本福祉大学大学院  
川崎市  
大阪市立大学大学院  
埼玉県鳩ヶ谷市役所介護保険課  
大阪大学大学院  
明治学院大学大学院  
昭和女子大学大学院  
立正大学大学院  
川崎医療福祉大学大学院  
龍谷大学大学院  
ムース 岩手県立大学  
立正大学大学院  
川崎医療福祉大学  
長崎国際大学  
中部学院大学  
宇都宮短期大学  
帝京平成短期大学



## 活動

各ブロックの活動をご紹介します

ブロック  
活動2001年度関東部会  
(事業) 活動計画

- ① 関東部会大会・総会の開催  
内容：基調講演／分散会／部会総会 他  
時期：2001年12月8日(土)  
会場：明治学院大学(白金校舎)
- ② 研究論文集『社会福祉学評論第2号』の発刊  
発刊時期：2001年12月頃を予定  
5月末日を原則的な締切日として関東部会会員より原稿を募っている。投稿された原稿の採否については、当部会が定める規定に基づく査読審査を実施する。
- ③ 機関誌『会報16号』『会報17号』の発行  
機関誌には、運営委員会議事報告、イベント開催の案内、研究レポート等を掲載する。発行は原則的に年度2回。
- ④ 運営委員会(年度4回の開催を予定)  
運営委員会では、「関東部会大会・総会」をはじめとした当部会の活動について協議および決定をする。今年度の運営委員長は、当部会担当理事である山崎美貴子先生(明治学院大学)が務める。
- ⑤ 編集委員会(随時開催)  
投稿論文等の査読委員の選定や論文の採否など、研究論文集『社会福祉学評論』の発刊にかかわる事項について協議および決定をする。編集委員は当部会会員で構成され、必要に応じて随時開催する。

## 中部部会2001年度活動報告

## 1. 春の例会

と き：2001年4月21日(土)～22日(日)

と ころ：静岡県立大学短期大学部静岡校

## ◇第1日(4月21日)

共通論題「児童虐待と社会福祉の課題」

シンポジスト：

加藤光良氏(静岡県東部児童相談所所長)

江崎路子氏(名古屋市立大学医学部小児科・医学博士)

竹中哲夫会員(日本福祉大学)

コメンテーター：

山本伸晴氏(常葉学園短期大学)

白石淑江会員(同朋大学)

コーディネーター：

中田照子会員(同朋大学)

## ◇第2日(4月22日) 自由研究発表

1. 「山口県東和町高齢者の生活からインフォーマルサービスのあり方について」

伊藤 桜会員(静岡県立大学短期大学部)

2. 「韓国・国民基礎生活保障法の意義」

藤田博仁会員(愛知県立大学)

3. 「社会福祉実習教育システムの現状と課題  
—社会福祉士養成校の立場から—」○平野華織会員・笛木俊一会員・柿本 誠  
会員(日本福祉大学)4. 「司法の場における知的障害者の人権擁護と  
支援者の課題」川上輝昭会員(名古屋市立西養護学校・  
名古屋市立大学研究員)5. 「障害を持つ人の『自立』と『自立訓練』の  
意義についての考察—知的障害者自立生活訓練を中心にして—  
丸山 晃会員(鈴鹿国際大学短期大学部)

## 2. 秋の例会の予定

と き：2001年12月16日(日) 13:00～17:00

と ころ：中京大学 名古屋キャンパス

テーマ：社会福祉法の政策動向と問題点

—障害者福祉に焦点をあてて—



## お知らせ

社会福祉教育研修講座改め——

- 第3回 ソーシャルワーク実践教育研修講座  
期日/2002年1月5日、6日(全員宿泊)  
対象/高校、専門学校、養成施設、短大、大学等の  
社会福祉担当教員および大学院生  
参加費/日本社会福祉士養成校協会加盟校の教員お  
よび大学院生の方——14,000円 税込み  
(受講料 8,000円+宿泊料6,000)  
その他の方——18,000円 税込み  
(受講料12,000円+宿泊料6,000)

- 社会保障分野派遣専門人材養成研修参加者募集  
期間①国内・・・2002年2月中の1日間(予定)  
②海外・・・2002年3月3日から16日(予定)  
③帰国報告会・・・2002年5月中の1日間(予定)  
対象者①社会保障制度に関連する特定の専門分野の  
経験がある者。  
②研修終了後、JICA等からの要請に応じて本件  
分野の国際協力(ODA)に参加する意志が  
ある者。  
③国際協力の現場において対外交渉をしえる語  
学力を身につけているもの。  
④参加及び海外派遣について所属機関の推薦及  
び承認がえられる者。  
⑤原則として文部科学省所管の大学以外の国家  
公務員は除く。

問合せ・・・国際厚生事業団社会保障分野派遣専門家  
人材養成研修担当 (Tel 03-3225-6591)

## 事務局連絡

- ▼移動届・・・発送した郵便物が転居先不明で返送されて  
くる件数が増加しています。転居先(自宅および勤  
務先)を速やかにハガキ、FAX、メールでご連絡く  
ださい。
- ▼学会のホームページのアドレス・・・11月より少々変更  
となります。くわしくは、このページの奥付をごら  
んください。
- ▼お詫び・・・前号で「連絡のとれない会員」という掲載  
の中に、事務局の勝手な都合で西島衛治会員(九州看護  
福祉大学)を記載してしまいました。お詫びして、  
訂正いたします。
- ▼会費の納入・・・会費の納入はお済でしょうか。学会で  
の発表や論文の投稿(共同執筆を含む)は会費が未  
納ではできませんので、ご注意ください。

## 日本社会福祉学会創立50年史 編纂事業へのご協力ご依頼

日本社会福祉学会は、1954(昭和29)年5月9日の  
創立より来る2004年には50年を迎えることになりました  
ので、「日本社会福祉学会創立50年史」の編纂を行  
うことになりました。年史編纂にあたり、関係資料の  
蒐集作業を開始いたしました。学会事務局手持ちの  
資料が少なく、特に創立初期の資料が手薄です。会員  
の皆様の中に、「設立総会の資料」「大会報告集」「報  
告のレジュメ」「地方部会関係資料」「写真」など、お  
持ちの資料がございましたら、ぜひ学会事務局までお  
寄せいただきますようお願いいたします。

—日本社会福祉学会創立50年史編纂委員会—

## 学会ニュース 編集後記

9月11日、台風がやや静まった夜、第20期新理事会  
準備の拡大運営委員会を終え帰宅した日に、テレビか  
ら入ってきた衝撃的事件。思わぬ影響は学会運営にも  
少し及んで、沖縄大会事務局に送った会員宛名ラベル  
が空港荷物検査の混乱で遅れるなどがあって、大会開  
催日が近づき会員にもご心配をかけていたかと思いま  
す。

今期担当の最終ニュースは、21世紀幕開けの本学会  
大会への実行委員会からのご案内とこれも記念すべき  
学会創設50周年事業へのご協力依頼などを中心に編集  
作業を終了しました。3年間、少ない枚数でもできる  
だけ各地方部会活動を掲載するなど、会員各位の情報  
共有を願って編集に努めてきましたが、ご協力いただ  
きありがとうございました。

学会ニュースが会員各位の研究活動に役立つことを  
願いつつ、次号からは次期担当理事にバトンタッチし  
ます。  
(田端光美記)

\* \*  
 発行人 大橋 謙策 学会ニュース28号  
 編集人 高橋 重宏  
 発行日 2001年10月5日  
 発行 日本社会福祉学会  
 〒160-0008 東京都新宿区三栄町8  
 森山ビル西館501  
 TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204  
 Email jsssw@ma3.justnet.ne.jp  
 URL http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssw/  
 <9月末現在会員数 4,111人> (印刷/原孔版)  
 \* \*